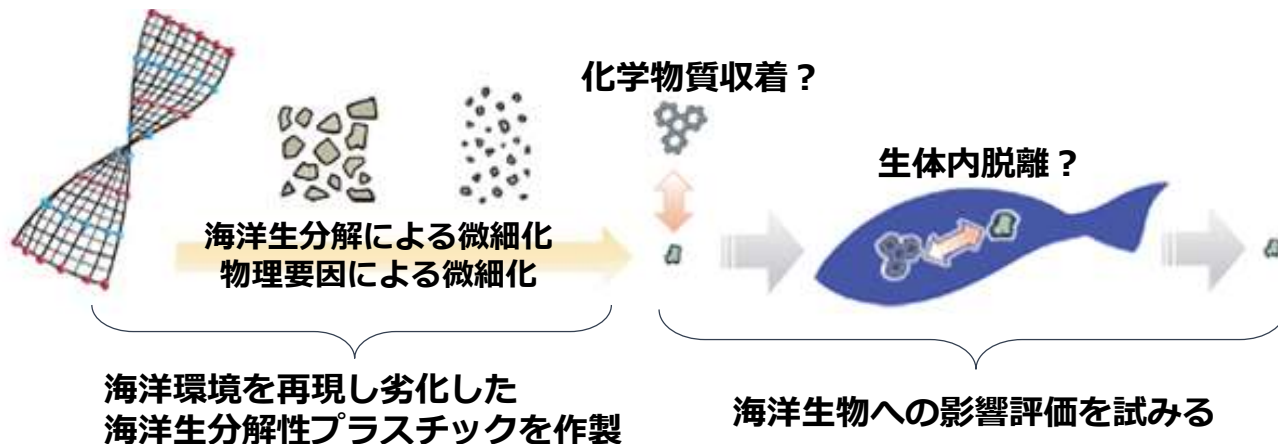


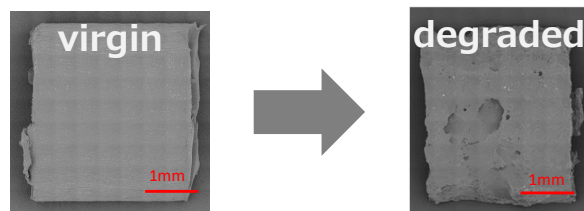
海洋生分解性プラスチックに収着した化学物質の生態影響は？

海洋生分解性プラスチックを介した化学物質曝露の影響はあるのか



成果

1. 海洋生分解性試験で劣化した海洋生分解性プラスチックを作製
2. 海洋生分解性ポリマーの種類によって多環芳香族炭化水素（PAHs）親和性に差があった（ポリマーのC/O比および直鎖炭素数の違いに起因か）
3. 海洋生分解性ポリマーに収着したPAHsは模擬消化液で容易に脱離（劣化品では脱離が弱まるポリマーもあった）
4. 文献値¹⁾を参考にワーストシナリオで試算 → 海水魚（マダイ稚魚）のLD₅₀を下回った



ワーストシナリオでの評価



1) 牛島ら, Journal of Japan Society on Water Environment Vol 41. No.4. pp.107-113(2018)

この成果は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の委託業務（JPNP20008）の結果、得られたものです。

お問い合わせ先

株式会社 島津テクノリサーチ 環境事業部

京都本社 TEL 075-811-3183 (直通)



*最新の情報は、Webサイトでご確認いただけます。